

Zenker憩室と甲状腺腫瘍の鑑別は容易？

— 少しのことに、先達はあらまほしき事なり —

はじめに：

食道憩室のなかでも頸部に発生する Zenker 憩室の頻度は約 10%と低く、一般の外科医が臨床上遭遇する機会は少ないとされています。憩室が小さく、無症状であれば経過観察で十分ですが、嚥下障害や憩室炎などの症状があれば手術が必要になることもあります。

甲状腺エコーを行っているとき、かなりの頻度で食道憩室に遭遇します。この疾患のエコー像を一度も見たことがなければ、甲状腺腫瘍と誤診しても不思議はありません。甲状腺腫瘍と間違えて、穿刺吸引細胞診を行った経験を持つ甲状腺外科医は多数いるものと想像されます。

定型的症例を示します。

症例 1

70 代男性、甲状腺乳頭癌のため甲状腺全摘術施行

術前の頸部エコーで甲状腺左葉に内部不均一な低エコー腫瘍を認めた (図 1 A)。

頸部 CT では食道憩室と容易に診断可能である (図 1 B)。術中、食道入口部より突出する憩室が認められた (図 1 C,D)。



図1A：頸部エコー

図1B：頸部CT

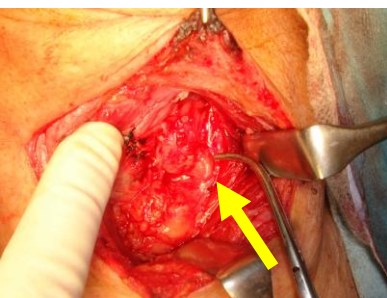


図1C：術中写真

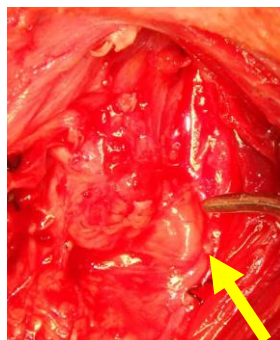


図1D：術中写真 (拡大)

症例 2

50 代女性、甲状腺濾胞腺腫のため甲状腺左葉切除施行

頸部エコーでは周辺不均一で石灰化様の Acoustic shadow を呈する腫瘍様病変を認めた (図 2 A)。頸部 CT では食道に連続する憩室が認められた (図 2 B)。

術中所見では食道憩室を認めた (図 2 C,D)。

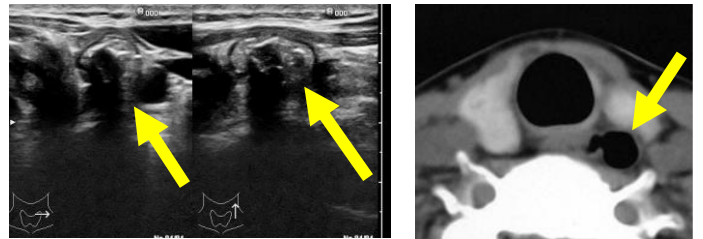


図2A：頸部エコー

図2B：頸部CT

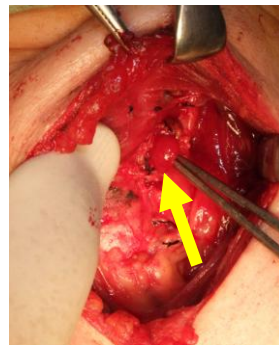


図2C：術中写真



図2D：術中写真 (拡大)

症例 3

80 代女性、甲状腺乳頭癌のため甲状腺全摘術施行

頸部エコーでは内部不均一、高輝度の Spot を伴う腫瘍様病変を認めた (図 3 A)。

頸部 CT では食道から連続する空気を伴う LDA を認めた (図 3 B)。

術中所見では食道憩室を認めた (図 3 C,D)。

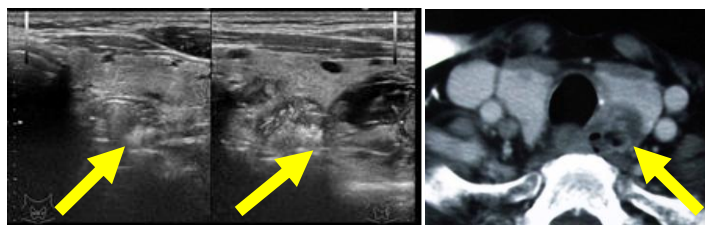


図3A：頸部エコー

図3B：頸部CT

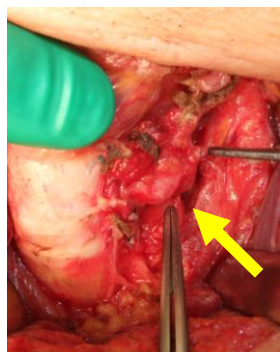


図3C：術中写真

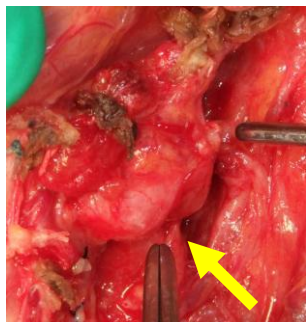


図3D：術中写真 (拡大)

エコー診断のポイント：

食道入口部付近で石灰化様のエコー所見があれば、頭の片隅に Zenker 憩室の存在を思い浮かべるべきです。憩室内の Air と内容物は嚥下運動により移動するため、横断面、縦断面で観察すれば一瞬で鑑別診断可能です。ただ、憩室のエコー像を一度も見たことがなければ診断は困難かもしれません。くれぐれも、憩室を穿刺することだけは避けたいものです。穿刺して、粘稠な唾液を確認すれば、しばらく落ち込むこと間違いなしでしょう。

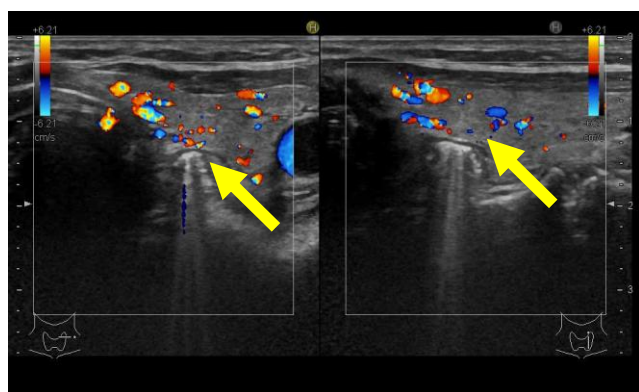


図4：頸部エコー

最後に：

高校生の頃、古文の授業で「徒然草」を読んでも面白いとは感じませんでした。しかし、試験のヤマなので、読まざるを得なかった人も多いでしょう。

仁和寺にある法師、年寄るまで石清水を拝まざりければ、心うく覚えて、ある時思ひ立ちて、たゞひとり、徒歩より詣でけり。極楽寺・高良などを拝みて、

かばかりと心得て帰りにけり。

さて、かたへの人にあひて、「年比思ひつること、果し侍りぬ。聞きしにも過ぎて尊くこそおはしけれ。そも、参りたる人ごとに山へ登りしは、何事かありけん、ゆかしかりしかど、神へ参るこそ本意なれと思ひて、山までは見ず」とぞ言ひける。少しのことに、先達はあらまほしき事なり。(徒然草、第52段)

仁和寺は御室桜で有名ですが、鐘樓の傍の枝垂れ桜は写真家の間で隠れた名所として知られています。

学会の名誉とされ評価ポイントの高いシンポジウム、ワークショップなどに参加しても、役に立つ情報はわずかです。長年、専門分野の学会に参加していれば、ライバルたちの手の内は互いに知り尽くしています。

しかし、ともすれば低い評価をされがちな症例報告は全く別次元のものです。一生かかっても経験できないような、珍しい症例が経験できることは素晴らしいことです。

甲状腺外科の世界で最も盛り上がり、熱い討論が交わされるのはポスター発表での症例報告です。第一人者の長老が発表することも多く、若手からベテランまで多くの専門家が忌憚のない意見交換を活発に行っています。

Zenker 憩室は稀な疾患ですが、エコー像を一度見ておけば、明日から診療で困ることはありません。

「少しのことに、先達はあらまほしき事なり」と感じる次第です。



図5：仁和寺の枝垂れ桜：鐘樓近くの知る人ぞ知る撮影ポイントです。先達がなくても容易に到達できます

Photo. by K.Sugino